

## 2018年度「学会論文賞」授賞の報告

医療経済学会では、医療経済・医療政策研究の発展を図るため、2009年に「学会論文賞」が設立されました。

この賞は、医療経済学会雑誌である「医療経済研究」に掲載された研究論文の中から与えられるものであり、賞状のほか副賞として賞金（提供：医療経済研究機構）が贈られます。

2018年度は、以下の論文が受賞され、2019年9月7日開催された医療経済学会 総会にて、医療経済学会 会長 今中 雄一 先生より表彰状が授与されました。また、医療経済研究機構 西村 周三 所長より副賞が贈呈されました。

### 佐野 隆一郎 先生

（東京大学大学院 医学研究科 公共健康医学専攻保健社会行動学分野）

### 「労働時間種別による病院勤務医の夜間休日労働の勤務意欲にもたらす影響の検討」

#### 授賞理由：

本論文は、厚生労働省「医師の働き方改革に関する検討会」で注目されたデータ個票に基づき、常勤勤務医の所定外実働時間と待機時間の長さの両方が、常勤勤務医の夜間・休日労働意欲を低下させること、その効果は待機時間の長さの方が大きいこと等を明らかにした。手堅い実証分析手法で、法的・報酬的評価の「軽い」労働時間が、実は常勤勤務医にとり「重い」負担となっているという、時宜を得た重要な政策含意を導き出している点を高く評価し、編集委員会一致で推薦となった。

医療経済学会では、医療経済・医療政策研究の発展を図るべく2009年に学会論文賞が設立されました。また2012年からは、特に若手研究者の研究奨励を図るべく、新進気鋭の若手による論文を受賞対象として選ぶようにしています。このたびの選考でも、論文の質はもとより、若手研究者の意欲的な取り組みが高く評価されています。次年度以降も若手諸氏の意欲的投稿を期待します。

『医療経済研究』編集委員長 橋本 英樹